



祝150周年

やさしさと 思いやりで

笑顔がいっぱい！



つながれ かがやけ 山里小

平和ウォーク 10月28日

先週の月曜日に、平和ウォークが行われました。平和公園、如己堂、浦上天主堂、爆心地公園、原爆資料館等の平和関連施設を縦割り班で見学する取組です。案内役は6年生、伝える相手は1年生から5年生です。

6年生は自分の言葉で説明をし、しっかりと平和の思いを伝えました。これまでお世話になった平和案内人の方々からもお褒めの言葉をいただきました。また、低学年を気遣い、優しく声かけをしたり、わかりやすい言葉を選んで説明をしたり、相手のことを考えて行動する態度も素晴らしかったです。

一方、1年生から5年生は、6年生のメッセージをしっかりと受け止めていました。低学年にとっては難しい内容だったと思いますが、一生懸命に耳を傾け、真剣な眼差しで6年生の話聞く姿が印象に残っています。

このように、6年生を中心にして、チームで平和を学び、6年生から下学年へ平和のバトンが受け継がれていっていることをうれしく思います。山里小のじまんであり、よき伝統です。



平和祈念式 11月1日

学校のシンボルである「あの子らの碑」が昭和24年11月に建てられて以来、毎年この時期に「平和祈念式」が続けられています。

今年は、永井博士の孫の永井徳三郎さんが父誠一さんの被爆体験を講話してくださいました。当時小学4年の誠一さんが原子雲や焼け焦げた遺体などの惨状を経験した話や、戦争・原爆のことを次の世代に語り継いでほしいという願いを語ってくださいました。

黙祷を捧げたあと、代表児童による作文が発表されました。みんなの心に響く、素晴らしい発表でしたので、全文をここに掲載します。



「わたしができる平和とは」

山里小学校に転校して3年が過ぎようとしています。それまで私は沖縄県に住んでいました。沖縄県では沖縄戦という地上戦が行われ、約10万人の死者やたくさんの負傷者が出ました。沖縄の学校では、沖縄戦の勉強をし、6月23日の慰霊の日には、摩文仁の丘という場所で平和祈念式が行われていました。さらに、今でも戦争の時の不発弾が見つかり、不発弾を処理する大きな爆発音が授業中、教室に響いて怖かったことを覚えています。

そして、4年生のとき、私は、この山里小学校に転校し、長崎原爆について、永井博士について学んできました。

長崎でも、原子爆弾でたくさんの命が一瞬にして奪われました。今でも原子爆弾の影響で亡くなる人や苦しんでいる人がいるとも言われています。戦争が終わっても、家族を失った悲しみ、戦争や原爆の後遺症などの苦しみ、危険な不発弾が今でも残っている恐怖は、何十年たっても、心から消えることはありません。「戦争」は動植物の命を奪い、自然を壊し、人の幸せを奪う残酷なものです。

今、思うことは、戦争をなくすことが目標ではなく、戦争がないのが当たり前、平和で暮らすことが当たり前の世界を目標にすることだと思っています。

そのために、私ができること。

永井博士の「如己愛人」の思いを受けつぎ、自分のことのように、まわりの人を大切に、やさしく、思いやりをもって過ごしていくこと。そして、笑顔で毎日を暮らしていくこと。平和のために私ができることです。

最後に、今日のこの祈念式は、平和の大切さをあらためて思う日、そして、これからも平和であり続ける、と、誓う日です。

わたしたちは、今日の誓いを胸に、これからも、みなさんと笑顔あふれる山里小学校にしていきたいでしょう。